

新幹線プレス 	2024年8月23日	No.674
	発行者	伊藤一也
	編集者	教宣部
JR東海労新幹線地本		

早々と人事賃金制度見直しを妥結したユニオン本部に不満の声が噴出！

『アクセス No.704～705号』のJR東海ユニオン大会報告によると、大会直前の6月26日に妥結した「人事・賃金制度等の見直し」に対して代議員から多くの不安と不満の声が出されたようです。ユニオン本部役員が「人事考課に対する管理者組合員・組合員の不安について多くの発言がありました」（尾内委員長）「今回制度を見直したが、うまくいかないこともあるかもしれない。～これをもって着地点とするつもりはありません。」（今井書記長）と言っているとおりで。

どのような声なのか、『アクセス』によると「具体的な将来像をイメージできないことへの不安が生じている。」「本見直しにより、それが不透明になったことは否めない。」とのこと。このような発言ができるのは当然です。職場では制度見直しへの不満と不安の声が渦巻いています。

この間人事賃金制度の見直しが何度か行われてきましたが、昇進・昇格がされないという不満の声はますます大きくなっています。そもそも会社にとっては経営における利益の追求＝人件費の抑制は大きな前提であり、人事賃金制度見直しは、人件費を削減するための手段であり、昇進昇格の削減は必然です。人件費を拡大する＝昇進昇格を拡大する制度見直しなどありえないのです。

人事考課についての面談が今回の見直しの一つの柱ですが、それは昇進昇格がされないのは「努力が足りない」ことにすりかえごまかすためのものでしかありません。また降格が制度として明らかにされていますが、「降格にならないだけいい」というように昇進昇格への不満をそらし、社員に競争をそそのかすものです。

『アクセス』によるとユニオンの今井書記長は総括答弁で、「人賃制度見直しでは～(見直しの)周期が凄く狭まっている。これは今後ますます速くなっていくかもしれない、我々是对応していかなければいけない。～各級機関の執行部は、適切な判断ができるようになっていなければならない。」などと語っています。これは、これからもさらなる人事賃金制度改悪・不当な昇進昇格抑制を拡大していくという会社の意向を代弁するものであり、それを進んで受け入れていくこと宣言したものです。

JR東海労は今回の人事賃金制度見直しに反対しています。ユニオン組合員の皆さん共に声を上げていきましょう！